レッスン：SPA106

テーマ：創造界におけるマインドの使用

SPA106 KE02/05/02

私の姉妹・兄弟たちよ

スピリット、光および火の子供達よ。私たちは常に主、絶対、主の聖性のなかに抱かれています。

　以前のレッスンで、終わることのないディバイン（＊神）の黙想の結果として、絶対存在のアウタルキー（＊自足状態、そこには振動、発振もない）のなかに現れと創造界がある、と説明しました。創造界（創造の諸世界）をあなたはどのように理解しますか、そして誰がそれらの世界を創るのでしょうか？創造界を築く手段とは何でしょうか？私たちは言いました、全ては何かであり、その何かを通じてと言いましたが、この何かを通じて何があるのでしょうか？そして創造の諸世界はいくつありますか？そしてそれらの諸世界をどのように分けるのでしょうか？何か質問がありますか？

Q：それらの様々な層(plane)は様々なバイブレーションであり、それらは私たちに経験する機会を提供している、と言えるでしょうか？

K：それらの層？どの層ですか？

Q：7つの層、そしてその中にある7つの亜層。

K：Lifeの諸世界から私たちはどんな経験を受け取るのでしょうか？Lifeの諸世界と言う時、それはLifeが完全にその本質を現わしているところです。Lifeはそれらの諸世界で何らかのレッスンまたは経験を受けるでしょうか？答えはノーです。しかし、それら創造の諸世界をどのようにして分けるのでしょうか？だれか知っている人はいますか？

　実際、私たちは創造の諸世界を2つのグループに分けます。4つのヘブンがある存在の諸世界、そして3つのヘブンがある実存の諸世界で、全部で7つのヘブンがあります。そして覚えているかもしれませんが、存在の諸世界である4つのヘブンでは、Lifeはその本質を完全に現わしています。

　もしそうなら、なぜそれら存在の諸世界があるのでしょうか？なぜそれらの諸世界があるのかと考えたことがありますか？それらの諸世界はディバインの黙想に奉仕しているのでしょうか？なぜ実存の諸世界だけでなく、存在の諸世界があるのでしょうか？

Q：それは絶対存在に近い、何かより高位のものへと引き寄せるためですか？

K：それら存在の諸世界とは元型、イデア、法則、原因の諸世界であると言いましたね。それらの諸世界には全てがあります。後に形を帯びてくるものに関する全てがあります。もしそれらの諸世界がなければ、実存の諸世界でLifeの様々な形態がどうして存在し得るでしょうか？存在の諸世界では全ては元型およびイデアとしてあるのです。

Q：存在の諸世界にはなぜ4つのヘブンが必要なのですか？その線より向こうの世界については、実際誰も知らないしわからない、と言いますね。でもそれら4つのヘブンについて確信していますが、何がそのような確信をもたらすのですか？

K：なぜわかるのか、ということですか？

Q：なぜ4つではなく、２つだけ、または1つではないのですか？

K：私たちが4つのヘブンであると知る理由は、同調の結果です。そしてそれらの諸世界で起きることは何であれ、特に下降に関する詳細に関しては、同調を通じてLifeから提供されるのです。それゆえに私たちは知っているのです。それは実体験による知識ではありません。なんであれ存在の諸世界について話したこと、それは同調の結果であり、それ以上ではありません。

Page2

　しかし、7つという数は聖なる数です；それは単に同調によってわかるだけでなく、過去の神秘家たちも知っていました。最愛のお方もまた７という数について話しました；そして福音書のヨハネを含む彼の弟子たちも７という数字について話しました。ですから７という数については何ら疑問はありません。

Q：それは身体のセンターを示しているのですか？

K：身体のセンターだけでなく、ヘブンもです。7つのヘブン、それはテオーシス（＊神との再合一）へと戻るために人が昇らねばならないものです。何回も言いましたが、人体について小宇宙的に話す時、それは大宇宙と同一であると言いましたね。つまりテオーシスに戻るために人間が達成しなければならないものです。

　勿論小宇宙的には、人間はこの三角形の中だけにいます（＊生命の木における一番下の下向きの三角形）。しかし、現在のパーソナリティーの三角形のなかにいる間に、人間はまた進化の大きな元型を昇っているのです。なぜなら、それは進化・成長の元型だからです。実際、この元型のなかに全てがあり、私たちはこの元型は、バランス、実存のステートのなかで創造界を包含しているものであると見なすべきです。なぜなら、創造界は一つの創造界として存在し、多数の創造界があるのではありません。

　この元型は最大のもののため、そして最小のもののためと言いました。物質としての１つの原子でさえも、その元型の結果、存在し、実在しているのです。人体にしても惑星にしても同じことが言えます。惑星にはセンターがあるでしょうか？どう思いますか？勿論、惑星にもセンターがあります。また太陽系にも、銀河にも、そしてまた超銀河、等にもセンターはあります。

　それらの銀河は互いにどのように関係しているのでしょうか？どう思いますか？

Q：磁性ですか？

K：エネルギーからの磁性です。そうです、勿論それは科学がわかっていない何かです。彼らはブラックホールについて述べています。ブラックホールとは何だと思いますか？ブラックホールとは多数の銀河を一つのセンターとして互いに結びつけている諸センターです。ですから、実際それらのブラックホールは創造界の元型に相当し、それを形成している諸センターなのです。それらのセンターがなければ諸宇宙は衝突してしまうでしょう。磁性および電気としてエネルギーを提供しているのは、それらのセンターなのです。実際には、それ以上の何かです、なぜならそこにはLifeがあるからです。創造界にバランスが存在すべくLifeが提供しているのがエネルギーなのです。それゆえに科学は、それらのブラックホールには多くのエネルギーが出入りしていることを発見したのです。これに関しては将来もっとお話ししましょう。勿論、人間はテクノロジーによってこのリアリティーに到達することができるようになるでしょう。そうなれば、物を動かすパワーの手段として、他のエネルギー手段は必要ないのです。

Q：この惑星上における7つのポイントについて述べましたが、それについてもう少し話してくれますか？

K：この惑星上にはセンターがあり、それらのセンターもまた生命の木を形成しています。今はそれらのセンターについて話す時ではありません。なぜなら、それらのセンターはこの惑星が存在することに関して大きな役割を果たしており、人間が自分の諸体をマスターしていない間は、この惑星に関するそれらのリアリティーに触れるのは適切ではないからです。

Q：センター（＊複数）と言う時、それはこの地球上の場所を意味しているのですか？

K：そうです。非常に大きな役割を果たしてきた地球上の複数の場所です。この惑星の進化に関して、それらは今でも大きな役割を果たしています。そしてこの地球の進化というとき、この地球という惑星とつながっている全人類の進化のことを言っています。肉体について触れるべき部分と触れてはいけない部分がありますが、地球上の場所についてもまったく同じことが言えるのです。

　何年も前にあるレッスンにおいて、自己実現した現在のパーソナリティーの体験の一つとして、この地球の中心に入る、ということがあると言いました。そこは火のステートであり、それはこの地球にLifeを与えています。そのセンターは、生命の木の上ではどのセンターに相当するでしょうか？そのパーソナリティーは全くの火であるそのステートに入ることができるのです。そこにはLifeが存在するでしょうか？どう思いますか？答えはイエスです。そこにはLifeが存在します。

　再び創造の諸世界に関する質問です。人間のイデアと聖霊のイデアの関係は何でしょうか？なぜ１つではなく2つのイデアがあるのでしょうか？人間のイデアの役割は何で、聖霊のイデアの役割は何でしょうか？質問がありますか？聖霊の役割とは何でしょうか？

Q：全てを維持すること。

K：マインドを使用することによって、そしてマインドを通じて維持し、創造することです。ですから全てはマインドであり、マインドを通じて現れがあります。ですから、諸宇宙を、創造界の諸世界を築くためにマインドが使用されます。

　マインドとはLifeから来ています。それは神自身ではなく、聖霊ではありません。それは創造界が存在するために、Lifeそれ自体によって現れに与えられたものです。そして様々なバイブレーションのマインドがあり、まずマインドの海があり、私たちはそれをスーパーサブスタンスと呼んでいます。しかし、それらのバイブレーションにおけるマインドにはいかなる形もありません。ですから実際、それらのバイブレーションにおいては諸宇宙は存在しません。

Q：イデアとしても実在しないのですか？

K：勿論イデアとしては実在します。実在する(exist)と存在する(is)の間には大きな違いがあります。それらはイデアです。なぜでしょうか？なぜなら、それらの諸世界におけるLifeにはいかなるニーズ（必要性）もなく、全てはLifeのなかにあります。それはLifeの外側ではありません。ですから、マインドすらLifeの中にあり、Lifeの内側という時にはモナドセルフとしてのLifeもその中にすべてを有しているのです。

　さて、現在のパーソナリティーは人間においては影ですが、影である現在のパーソナリティーにとって自らを表現するためのニーズ、手段が必要であり、それはマインドです。表現され、維持されるためにはマインドの様々なバイブレーションが必要なのです。

Q：研究室で物質を分析することができますが、超物質、サブスタンスについてはどのようにして分析できるのでしょうか？肉体の重さは死亡後には軽くなるとよく言われます。なぜ軽くなるのでしょうか？

K：物質のなかで各エレメントが存在し、実存するということ、それはより精妙なステートのバイブレーションから来ていることを意味します。サブスタンスについても同じことが言えます。

　さて、スーパーサブスタンスのなかでは全てはイデア、可能性として存在し、その結果がマインドの低次のバイブレーションにおいて現れるのです。火のエレメント；ここでは（＊この次元ではという意味）それが触媒のエレメントであることを私たちは知っています。それは高次のバイブレーションのなかでは何を提供するのでしょうか？それは触媒としてのエレメントでしょうか？答えはノーです。高次のバイブレーションにおいては火のエレメントは、想念、思考の動き、活動なのです。スーパーサブスタンスにおいては私達が認識できるものは何もありません。なぜなら、そのステートでは全ては可能性として存在するからです。それはLifeの海であり、これ全てを生き生きとさせ、マインドに提供するのです。

　Q：考え、想念を導くのは高次のバイブレーションの火なのですか？考えとは二元性の結果なのでしょうか？

K：そのとおりです。

Q：それでは高次のバイブレーションには二元性があるのですか？

K：自己実現に到達するまでは二元性があります。二元性は自己実現の寸前まで存在し、現れます。超意識的意識が停止すると、その後は自己実現となります。ですから、パーソナリティーが超意識的意識を現わしていても、まだ二元性を使っているのです。意味は完全に消えますが、しかし二元性はまだそこにあるのです。

Q：抽象的思考ができる人は、簡単に像を創造することができるが故に、自己実現に到達するチャンスがより高いのでしょうか？

K：今あなたがインテリジェンス、知性について話しています。知性はより高い気づきのレベルを意味するものではありません。

Page4

Q：それでは自己実現したパーソナリティーは多かれ少なかれ、（神の）黙想のきらめき、閃光のようなものを体験するのですね？しかし、この意味の世界で人々とシェアするために常に意味に戻ってくることになるのですが…。

K：自己実現のステートではパーソナリティーは思考をまったく使わず、スーパーサブスタンスの体だけを使います。その体は決まった形ではありませんが人間のイデアフォームがあります。なぜなら、それは天上人のフォームだからです；ノエティカル体もサイキカル体もありません。自己実現したパーソナリティーはイエスキリストロゴスのフォームを有しています。これは人間がその本質を完全に現す時の、人間のイデアフォームです。これは元型によって与えられます。そして私たちは不定形の諸体を再形成しなければならないと言いましたが、それはフォームを与え、この元型を活性化するためにワークする、という意味です。

　さて、自己実現のステートからバイブレーションを下げると、自動的にそのパーソナリティーは二元性を現す結果としてノエティカル体、サイキカル体を身に纏います。そして転生のサイクルのなかに留まり、原因・結果の法則の下に置かれます。そのようにしてその現在のパーソナリティーは他の同胞の人間たちを助けることができるのです。

Q：死という現象の後、体重が減るので、サイコノエティカル体には重さがあると言われていますが。

K：スーパーサブスタンスは高次のバイブレーションにおいて物質でしょうか？しかし、それらのバイブレーションに重力は存在するのでしょうか？実際、完全に再形成されたサイコノエティカル体にはまったく重さはありません。しかし、まだ再形成の最中においてはそのパーソナリティーの無知のゆえに重さがあります。物質と超物質には思考、想念が影響をもたらしますが、サブスタンスのバイブレーションではそれほど影響はありません。

Q：それでは自己実現したパーソナリティーはその神の本質を現わし、天上人と同じになるというのは真実ですか？

K：そうです、もしパーソナリティーがそのステートに留まるなら。しかし、転生のサイクルにいる時は違います。

Q：つまり、パーソナリティーは自己実現に到達できるが、同時に現在のパーソナリティーとしては弱点を見せる、と結論づけていいでしょうか？

K：はい、しかし彼らは、自分が現象を現わすことができるなどと決して宣伝することはないでしょう、特にイリュージョンの創造による現象は。自己実現した現在のパーソナリティーは自分が自己実現した現在のパーソナリティーとは決して主張しないし、自分が神から直接来たものだなどとは言わないでしょう。そのように言う人もいますが…彼らは自分の前で人々が跪くのを受け入れています。自己実現した現在のパーソナリティーの大部分は世間に知られていません。

　転生のサイクルに留まっている自己実現した現在のパーソナリティーは（…いいですか、自己実現した現在のパーソナリティーたちは全員バイブレーションを下げて転生のサイクルのなかに留まっているのですが…）、バイブレーションを下げたからといってパーソナリティーとしてLifeの本質に反することをするという意味ではありません。食べ物を食べる、呼吸する、衣服を着るというように、弱さを現わしますが。

Q：それらは弱さ、弱点ではありません。

K：勿論、それらは弱点です。それらすらも弱点なのです。もっと弱点を言いましょうか？

Q：肉体がある以上、それらは必要なのです。

K：勿論、肉体から来るもの、時にはサイキカル体から来るものもあります。しかし同時に、それらのパーソナリティーたちは、何であれLifeの本質が提供するものを他の同胞の人間たちに与えています。しかし、同胞の人間たちはそのことを認識することができません。なぜなら、それは何か触れてわかるもの、目で見ることのできないものだからです。

Page5

　Q：ということは、自己実現したパーソナリティーはある程度進化した惑星上では学ぶべきものは何もないということですか？

K：だからどうだというのですか？実際、そのようになっています。しかし、彼らも二元性の意味の同じ結果を経験するのでしょうか？

Q：もし二元性がだんだん少なくなれば、それは前に進んだということではないのですか？

K：勿論、それは前進です。二元性は現在のパーソナリティーには何も与えません。結局、人間は思考、考えという現れを必要としなくなるのです。

Q：同調に到達したという人がいますが、しかし一度に完全な同調のレベルに到達するわけではないので、常に前進し、成長する余地があります。

K：同調？同調は「バン」と来るものです。同調の前は直感、直覚 (intuition)です。

　私たちが最初にエクササイズをするとき、「あなた方は完全な同調のなかで真理を探究する探求者のグループです」といいます。あなた方はお互いに同調していますか？何が起きていますか？誰もこの質問をしませんね？何が起きているのでしょうか？

Q：同調しようと試みます。

K：あなたが主に抱かれている時、あなたは同調しています。主の手のなかにいる自分を見出す時、主に抱かれている時、主があなたのために同調させているのです。これが実際にそのエクササイズの目的なのであり、あなた方が現在のパーソナリティーとして同調のステートに来るように期待しているわけではありません。

Q：はい、でも私たちはこのこと全てに気づいていません。

K：あなた方は気づいていませんが、しかし活性化しているスパークが、あなた方を、パーソナリティーをその方向に向けて助けようとするのです。なぜなら、スパークは他の人を活性化している他のスパークと同調しているからです。

Q：私はLifeとマインドの違いがはっきりつかめません。それは同じですが、何かが異なっているということですか？

K：マインドはLifeそれ自体ではありません。それはLifeから来るものです。そして多くのレッスンで述べたように､マインドが形成されて実存するためには、それを活性化するLifeの海が必要です。それはLifeから来、そしてLifeを必要とします。しかしLifeはマインドを必要としません。Lifeがそれ自体を完全に現わしていない時のみ、Lifeはマインドを必要とします。それがLife？、あるいはLifeの影がマインドを必要とする唯一の場合です。

Q：それではマインドをエネルギーと言うことはできないのですか？

K：違います、マインドはエネルギーではありません。

Q：それ以上のものですか？

K：マインド、それはそれ以上のものではありません。それは実際、エネルギー以下のものです。マインドはエネルギーを必要とします。マインドがそのなかにエネルギーを有している時には、答えはイエスですが、しかしそれはマインドではなく、それはエネルギーです。大きな違いがあります、なぜならマインドのなかにはマインドを実存させるエネルギーがあるからです。

Q：それではなぜエネルギーはLifeがそれを通じて表現される手段となり得ないのですか？もしマインドがエネルギー以下ならば、なぜエネルギーは手段としてマインドがそれを通じて…？

K：なぜならエネルギーはLifeだからです。実際、エネルギーはLifeです、そして私たちは何かが必要です。それを通じてLifeが低次のバイブレーションの中で表現される何かが。

Q：もしあなたがエネルギーをLifeと言うなら、私は今理解できます。

K：勿論、Lifeはエネルギーです。

Q：なぜなら、私はマインドをエネルギーだと考えていたからです。

K：マインドはそのなかにエネルギーを有しています。マインドはエネルギー以下です。

Q：でもエネルギーはこのバイブレーション（＊この世界）のなかで測定されます。

K：勿論、マインドのどのようなバイブレーションをとっても、その中にエネルギーを測定することができます。しかし、そのエネルギーはマインドから来るものではありません。マインドを実存させるもの、それはエネルギーです。つまり科学は、例えば何かを燃やすとそれは無にはならない、と結論づけます。それはエネルギーになりますが、しかし実際にはエネルギーに変容したのはマインドなのです。エネルギーは常にそこにあったのです。それは常にあったのです。

Page6

Q：それではあなたがマインドの様々なバイブレーションを通じて、と言う時、そのバイブレーションとはそれが有するエネルギーの量を意味するのではないでしょうか？そのバイブレーションが有するエネルギーの量、それはマインドの特定のフォームを与えるのでしょうか？

K：スーパーサブスタンスはマインドの海であり、そのなかにマインドのそれより低い他のバイブレーションが含まれています。低いバイブレーションはスーパーサブスタンスの海から分離していると考えないでください。違います。すべて、マインドの全てのバイブレーションはスーパーサブスタンスのなかにあります。

Q：それはイデアですか？

K：そうです。しかし、スーパーサブスタンスは創造界のなかにある何かであり、それらのバイブレーションを使うことによって元型やイデアがあるのです。なぜなら、マインドがなければ元型もあり得ないからです。何かが必要なのです。ですから、その中にある何かが元型を有し、元型は創造界のこの法則によってその能力を与えるのです。なぜなら、それは創造界における最大の法則だからです。そしてそのなかに創造界のより小さな法則があります。これについては多くのレッスンで述べてきました。

Q：そして各バイブレーションには特定量のエネルギーがあり、そのエネルギーは何であれイデアとして現わされるものと同一であり、それが特定の形、フォームを与えるのですか？

K：エネルギーとは特定の元型、イデアを形成するディバインの黙想の結果です。なぜならイデアはディバインの黙想の結果だからです；その黙想が絶対存在のワンネスから直接来ていようと、あるいはアークエンジェル達によって表現されるディバインの黙想であろうとも。アークエンジェル達によるディバインの黙想もまた絶対存在の黙想として特徴づけることもできます。そして勿論、その能力は初めにディバインの黙想によってアークエンジェル達に提供されたものです。Lifeの他のフォーム、植物界、動物界、鉱物界その他の元型を創造するためにです。

Q：それではディバインの黙想はそのエネルギーからスタートし、そしてイデア、法則、原因を形成するためにマインドのバイブレーションを使用する必要がある、と言うことができるでしょうか？

K：最初はスーパーサブスタンスを使います、様々なイデア、元型を創造するために。実際元型とは鋳型です。

Q：そしてその鋳型はスーパーサブスタンスから形成されるのですね。あなたは前にそれはそこにないと言いました。

K：それはそこにありますが、法則としてあるのです。それはそこでは役割を行いませんが、しかしLifeにとってそれは必要なのです、実際Lifeの現象にとって必要なのです。

Q：それではマインドはスーパーサブスタンスの前に、または後に来るのですか？

K：マインドですか？マインドとスーパーサブスタンスは一つです、それは同じです。マインドのなかにはすべてのバイブレーションが含まれています。それは前でも後でもなく、ただそうなのです。

Q：しかし、ある特定のポイントの後にのみ測ることができるのですよね。

K：マインドまたはそのバイブレーションを、諸宇宙を築くために使われる手段としてのステートと分けることはできません。それは創造界のなかにあるのではなく、それはディバインの黙想の活動のステートにあるのです。創造界がある時、そこにはマインドがあり、マインドを通じて現れ、表現があります。

　さて、アークエンジェルは人間のイデア、天上人のイデアとまったく同じフォームを有している、と言う時、そのフォームは何を提供するでしょうか？この法則、それは体にフォームを与え、その体には形の境界はありませんが、スーパーサブスタンスというフォームを有しているのです。そうです、もしあなたがアークアエンジェルを見るなら、それには形、フォームがあります。あなたが自己実現の体を使用するとき…それはスーパーサブスタンスのフォームですが…あなたは体を有しますが、その体はいかなる形、フォームをも取ることができるのです。最初にフォームがあります、それゆえに私たち全員はまったく同じように見える、と述べたのです。しかし、この体もまた諸宇宙を包含することができます。この形の境界はどれでしょうか？しかし、あなた方がお互いを見るとき、そこにある体を見ます。存在の諸世界におけるLifeもまたこの体を使います。Lifeがそれ自身を完全に表現するためにはその体が必要である、と述べなかったでしょうか？この体が必要ですか？それはこの元型を必要とします、天上人と同一の形の体を維持するためにはこの元型が必要です。そのとおりです。そしていかなる形の境界もないと言う時、それはそのパーソナリティーが有する可能性としての能力です。

Q：あなたがそう言う時、私はそれを理解、または感じる上で何の困難もありません。あなたが拡大するという時、それは実際あなたのマインドは、あなたがこれは私の形ですと言うべき境界を創造しないのです。それは拡大し、開くこのできる何かです。しかし、それは私たちがこの体にどんな境界も創造しないからではないかと考えています。あるいはそれは成長し続ける実際の形なのではないか、とも考えています。どちらでしょうか？

K：その体がより大きく、または小さくなるということではありません。なぜなら、創造界はLifeと比べたら本当に小さいからです。それが実際です。

　Lifeは全てを創造し、Lifeの外にあるものは何もなく、Lifeだけです。創造界もLifeのなかにあります。そしてまた創造界のなかにはLifeもあります。しかし、Lifeは創造界よりもずっと大きいのです。

Q：創造主は創造されるものより小さくはなれないのですね。それはわかりますが…

K：創造主はずっとずっと大きいのです。そして特にワンネスの多重性のなかにある全てのモナドがこの神の黙想に参加しているわけではない、ということを考えるなら。多重性のなかにある他の全てのモナドセルフ達は「どこに」いるのでしょうか？（そう言うことすら適切ではないのですが）。どこでしょうか？それはつまり、この神の黙想の活動に参加する全てより、ずっとずっとずっと大きいということです。

Q：私たちは拡大のイデアに戻ることはできるのですか？

K：それはそのパーソナリティー、Lifeです。なぜなら、それはいかなる形の境界をも持たないからです。体はそうと知らずに非常に大きくなることができます。なぜなら、制限なしに全てを包含する感覚を有するのは意識だからです。

Q：それでは意識に制限がないからですか？

K：そのとおりです。そして体がそれに従います。そして体はその能力に対していかなる境界、制限を与えません。

　さて、私たちはこの肉体を拡大することができるでしょうか？それは破裂するでしょう。勿論、拡大するという能力は、より高い気づきの現れへと動いている間、パーソナリティーが4番目のサイクルにいる間でさえ始まります。ある程度までそれを体験することさえできるでしょう。意識を拡大させて、この地球のある地域を包含するという能力を。この肉体と共にではなく、Lifeそれ自体によって与えられる能力と共に。

EREVNA SPA106./KE02/05/02